

1月24日(土) 新年親睦交流会を開催

1月24日(土)アルカディア市ヶ谷私学会館において、恒例の新年親睦交流会を開催しました。

新年会は会員相互の親睦を深めることを目的に開催され、今回は34名の参加者がありました。

参加者の中には、昨年度から参加いただいている早稲田大学学生サークル「わせだいら」の参加もありました。交流会の最後には、村歌「栄行け木島平よ」や県歌「信濃の国」、最後には早稲田大学の校歌を歌い、楽しいひと時があつという間に過ぎていきました。



H27の総会は木島平で開催!

平成27年度は、村政60周年及び調布市との姉妹都市盟約30周年の記念の年でもあります。

1月24日(土)に開催しました役員会において、村の節目である平成27年度の総会を、6月5日(金)の夜に木島平村で行うことが決定しました。村で行われる総会は、平成16年、平成23年に引き続き、今回で3回目となります。

これに合わせ、木島平村の歴史を学ぶ「ふるさと旅行」や村政60周年記念植樹祭への参加も予定しています。

詳細については、3月6日に開催します役員会にて検討し、皆様にお知らせいたします。



(←H23総会の様子)

「わせだいら」との連携を検討

同じく役員会では、早稲田大学の学生サークル「わせだいら」との連携について検討する部会を新たに立ち上げ、今後の検討していくこととなりました。学生の斬新なアイデアを借りて、一緒に木島平村の応援策を検討していきます。

詳細については、同じく3月の役員会で検討します。

鬼島太鼓

定期公演『青春を弾つ』



- *日時：3月28日(土)
- *開場：午後1時30分
- *開演：午後2時～4時
- *場所：調布市文化会館
たづくり2階
くすのきホール
- *先着：500名(先着順)
- *料金：入場無料



ふるやの思い出 「雪」

八王子市 石川安雄（西町出身）

ふわっと空から白いものが舞っている。綿をちぎって風に乗っている様な！

それが「初雪」、一日か二日ですぐ消える。その繰返しでやがて根雪となる。長いながい、村の冬のスタートである。

雪降りの朝は集落の道路も白一色の雪に覆われる。わら靴にカンジキを着けて雪踏をする。人の歩ける幅（80〜90 cm位）、それも各家の敷地の長さを繋ぎ、集落中の道路が繋がる。

集落の中はこれでいいのだが、問題は田んぼが続くところだ。誰も雪踏をしない木島駅に行くには木島田んぼを通らないといけないが雪道がないのだ。前に通った人の靴跡をたどるしかない。うまく人の足跡に合わせないとよろけてホーテキ（全く踏んでない雪面）にぶっ倒れる。吹雪の折はこの足跡が見えず、路肩に放置された目印を歩くしかなかった。

雪が止んで青い空の下、子供らが集落の道路でソリなどの遊びが始まる。

集落では和紙の製造が行われている。その原料は桑（楮）の木の皮が使用され、皮を剥いた後に残るツルツルな棒を20〜30 cmに切り5〜6本で筏状のものをつくりゴム長靴に括り付けてスケート代わりにして雪踏された坂道を滑った。とても不安定で随分転んだ。

雪はどんどん降る。晴間を見ては家々の人達が屋根の雪おろし



をする。何回も雪おろしをするうちに家の周りの雪の量が相当なものになる。雪の階段をつくり家の中への出入りをする。家の中は昼間でも電気を点けないと暗い。屋根からのソリ遊びなど楽しかった。

冬の終わりには雨が多くなり、雨の降った後の雪の表面が凍る。今まではズボツと嵌まっていた雪面もトントンと走れる程になる。凍み渡りと云って、朝10時頃までは雪の原っぱを自由に歩くことが出来、山へ行き杉の葉など拾って来た。束ねて学校へ持寄りストツと雪に足を取られた事もあった。田んぼへは凍み渡りでセリ採りにも行った。

長い冬の間、父母、兄姉は夜なべ（夜仕事）をして、俵や箒、ネコ（稲葉のじゅうたん）、わら草履、雪靴など深夜まで編んでいた。「雪や、こんこ……」や、「母さんが手袋編んでくれた……」などの童謡があるが雪深い村の生活はそんな生易しいものでなく家族の生命を守るため必死だった親達を思うと「親孝行したい時には……」を身に染みて実感するのである。

雪の思い出は楽しくもあり辛くもあつたが雪が溶けて春の来るのが待遠しかった。



屋根と地面が繋がる光景

会報原稿募集中!

郵送・FAX・メールいずれかの方法でお願いします。「村の思い出」「身近な出来事」など、木島平村に関係することであれば何でもOKです。

【送付先】〒389の2392 木島平村役場内 ふるや応援団事務局

fax 026908204121 ✉ kicho@jimadaira.jp TEL